

てびねり

一月号

平成21年1月1日発行
株式会社ゆしま陶助

明けましておめでとうございます

私たちは今年も作家活動との二足のわらじですが、会員の皆様のお役に立つように全力でがんばります。宜しく願い申し上げます。

ゆしま陶芸倶楽部 園部正樹

吉田絵美

1月に吉田絵美、4月は園部正樹の新作発表会があります。支援のほどお願い申し上げます。佐藤洪景



日本芸術院会館

「日本芸術院会館」は十二月号で紹介した「上野の森美術館」の隣にあります。上野公園園口から2分という近さです。創設当時は「帝国美術院」と言ったそうですが、戦後の昭和22年に現在の名称になりました。

日本の功績顕著な芸術家で構成されており、会員の定員は120名で終身会員制度なので、いくら優れた芸術家でも若い人は順番待ちでなかなか芸術院会員にはなれないのが実情のようです。



範囲は美術・文芸・音楽・演劇・舞踊部門と多岐にわたり、院長も初代が文芸の森鷗外、2代目が戦後最初の文部大臣を務めた高橋誠一郎、今の院長は曾野綾子のご主人作家の三浦朱門が務めています。

特別の催しがない時は芸術院所蔵の美術作品を無料で公開しています。木・土が休館で、時間は10時～16時。

記 佐藤洪景

◆今月の制作風景

◆陶芸談義：



(右から) 田口治喜さん、石川宏さん、関口隆司さん。3人で釉薬などの研究中？珍しい光景です。

◆かなり真剣：



吉田利子さん
有田焼の花淵皿を見本に、真剣に山水唐草の染付をしています。

◆木賊柄を：



佐々木志保子さん
サラダドレッシングの器に上絵でとくさ柄の縦線を何本も入れています。こちらも真剣です。

◆練り込みの小鉢



澤三紀さん
苦心して作った練込土でようやく小鉢を作る態勢になりました。焼き上がりが楽しみです。

◆微妙な所です：



小野芳子さん
ふた物の梅の形をした蓋の部分は今削っています。難しい部分ですが、上手です。

◆穴を開けないように：



内海泰子さん
ドーナツ型の一輪挿しの削りですが、この形は厚みを計れないので、穴を開けないようにがんばって削ってください。

◆実は母娘なんです：



瀧澤モヨ子さん(右・母)
山本詩子さん(左)
仲良く母娘で、初級を卒業しました。パワーがあり、ユーモアがあり楽しいお二人です。

◆声掛けしないで：



小窪猛さん
菊型のお皿の仕上げをしています。かなり薄くなってきました。話しかけられない雰囲気です。

◆写真ですか：



知久真理子さん
たっぷり入る番茶用の湯呑ですね。ちょっと写真を…。

◆ビードロ？：



鈴木香さん
釉薬掛けの前のやすり掛けです。すり鉢は白萩ですが、この湯呑はビードロ釉でいかがでしょうか。

◆織部を使いたい：



石田純子さん
「骨酒用の手付の片口鉢をベースに作りました。釉薬を何にするか迷いますが、織部と何か掛け分けにしましょう」

◆初級コースご紹介



岩崎めぐみさん
「皆さんよろしくお願ひします」

◆私が勧める美味しい店

推薦者 武田京子さん
ナボリの家庭の味 ピッツァの店
アラランジヤルシ



武田さんのお嬢さんのお友達夫妻の店。ここのご主人が修業時代にナポリ出身のシェフから母の味を教わりました。そのナボリの母の味にこだわりの店です。ナポリから輸入した手造りの窯(写真左)を使い薪でピZZAを焼いています。写真=オーナー夫妻(左右)と武田京子さん。店名が入った「灯り」は武田さんの作品です。



食後に出た「カップチーノ」うさぎと雪だるまの絵が鮮やかに浮かび上がっています。しばらく呑むのを忘れ、見とれてしまいました。



<アラランジヤルシ> 上り坂の途中にあります。PIZZERIAの文字を目印に！

春日通りを広小路の方から本郷に向かって歩き、湯島天神のある切通坂の途中にあります。(進行右側)

アラランジヤルシ

文京区湯島4 6 17 1F

電話03 3812 9616

休 日曜・第3月曜

予約をして伺った方が無難です。当教室から歩いて6〜7分です。

今月の作品

写真は実物と大きさが違う場合があります。作品の撮影とコメントは講師のみなさんをお願いしています。

□小野芳子さん 陶板付土鍋



蒸し器にもなるように穴の空いた陶板が入られる少し大きめの土鍋です。外側とふたは織部釉で内側には白萩釉を掛け仕上げました。

□石黒郁子さん 酒器セット



丁寧に時間を掛けた酒器セットです。桜の花は線彫りをしてピンク釉を筆で塗り、最後は全体にビードロ釉で仕上げました。可愛いです。

□川淵啓子さん 片口鉢



飾り気の無い浅い片口鉢に、志野釉を掛け、酸化焼成しました。掛け斑がうまくポイントになった使い良さそうなお品です。

□吉田利子さん 土鍋



取っ手を持ちやすいシャープなデザインにして全体のバランスが良くなりました。飴釉の色も良かったですね。4~5人用の土鍋です。

□野口華栄さん タンブラー



赤土に釉薬を掛けずに焼きめて作ったタンブラーです。さや鉢で火色を付けました。さや鉢=窯の中で灰を被らないように防ぐ容器。

□石川宏さん さかすき



さかすきの一部に白萩釉を掛け、わらを巻き重ねて焼き火燻ひだすきが出るようにしました。大変良い色ができました。

□内海泰子さん 一輪挿し



白土で作った安定感のある一輪挿しです。薄い織部釉を一度掛け、上半分にトルコ青を掛け、少し流れるようにしました。

□小林和彦さん 花器



丸く大きく開いた穴のところまで手びねりで積んで、その上の部分は細く長く伸ばしたヒモを、波状に積みトルコ青釉をスポンジに浸し表面に塗り仕上げた作品。

□中山弘子さん 大板皿



縦横三十センチはある大きな板皿です。口元のゆがみもポイントですが、表面にも貝殻の目が柄になっています。全体に黒マット釉を掛けました。大作です。

□井平敬子さん 茶碗



御深井釉を掛けた茶碗。口元と表面に呉須で染付し還元焼成した作品です。

□奥田智美さん 金魚鉢



レンガを積んで作ったように表面に線を彫って、弁柄を、アクセントに白萩とルリイラボ。全体に透明。楽しい金魚鉢です。レンガの発想ですばらしいオリジナル作品になりました。

□関口隆司さん 小鉢



ロク口を始めた初期の作品が焼けました。ロク口で小さなうつわを作るので苦労しましたが、出来上がると何か楽しさを感じさせる器です。

□知久真理子さん 抹茶碗



唐津焼の抹茶碗を見本にして作った作品。荒めの赤土で作り、白化粧で上手に表現できました。

□小宮昌子さん 網笠鉢



網笠の形に作った鉢に弁柄釉と白マット釉で雪笹を表現しました。色も形も大変良くできた作品です。何を盛りましょうか。

□藤本晃子さん タンブラー



内側に御深井釉。外側に飴釉を掛けて還元焼成したビールタンブラーです。飴釉の斑が面白く出ました。

お知らせ

陶助ゴルフ同好会「T.G会」
 1月8日 大根カントリークラブ
 (1月は満員のため締め切りました)
 2月5日 若洲ゴルフリンクス
 3月10日 江戸崎カントリー倶楽部
神田陽司師匠を応援する会主催
第4回史跡めぐり(4月25日)
水戸黄門ゆかりの小石川後楽園を訪ね、講演も一席あります。

見た事・聞いた事・読んだ事

1700は国の宝の時代があった

□昨年秋福島に行った時、地元の新聞のコラム欄に次のような記事が載っていて思わず感動した事がありました。「世界中で日本ほど子供のために深い注意が払われている国はない」「子供たちがいつもニコニコしている所から判断すると、子供たちは朝から晩まで幸福であるらしい」。

□これは、明治十年に来日し、東京帝国大学で動物学を教えた、エドワード・S・モースの著書「日本その日」から抜粋したものだそうです。□モースは大森貝塚の発見者として有名ですが、帝大で教える傍ら日本各地を訪れ、日本人のたくいまれな品性に驚き、中でも、子供を限りなく大切にすると地域の大人の姿に感銘を受けたといわれています。□日本は少し前までは、今と比べると皆貧乏で、子沢山の家が少なく、私の記憶でもモースの目を見たような光景が、随所にあつたような気がします。



□大森貝塚を
発見した
エドワード・
S・モース

□それに比べ今の日本は恵まれています。しかし、子供たちは昔と比べて幸せなのだろうかと思えます。親が子供を殺したり、パチンコに夢中になり、灼熱の車の中で子供を死なせたり、子供が犠牲になる話は枚挙に暇がありません。□秋葉原の無差別殺傷事件を始め、自分の自由にならなと切れ、欲しいものは人を殺しても奪うなど、皆、子供が犠牲になる事件と根は同じような気がします。前後を考えない刹那的な行動に底知れない怖さを感じます。□そして犯人は殆どが自分の欲望を満たす為に罪を犯しているのに、マスコミ等は「盗人にも三分の理あり」とばかり「社会が悪い」「政治が悪い」とはやし立て、個人の責任を薄めようとしている感があります。□文芸評論家だった故村松剛が過去に、喝しても盗泉の水を吞まず等というの、今は古く、喝させた社会の方が悪いという風潮になってきている」と喝破した記事を読んだことがあります。□お金や物がすべてで、道徳や精神面の豊かさ強さが希薄な現状では、モースが感動した日本の良さは、残念ながら当分取り戻せないのかも知れません。(記 佐藤)

写真はモース関連のHPから転載。